

# 保護者の皆様へ

平成 30 年 3 月 14 日

千葉大学子どもこころの発達教育研究センター

現在、千葉大学子どもこころの発達教育研究センターでは、小学校 3 年生以上の児童への「レジリエンスの育成プログラム小学生版」の授業実践効果の検討に関する研究を行っています。学校現場におけるこころの健康問題の予防教育に役立てることを目的に、この研究ではお子さんの自記式質問紙（アンケート）データを使わせて頂きます。質問紙の情報等が、この研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

## 1. 研究課題名

レジリエンスを育成する授業と児童のメンタルヘルスの関係

## 2. 研究の意義・目的

本研究では、学校において実施されているレジリエンスを育成する授業と児童のメンタルヘルスの関係を検証するために、小学校でレジリエンスを育成する授業の実施状況を調査し、児童に対して子どもの強さと困難さ、レジリエンス、およびサポート資源を確認する自記式アンケートを実施することで、レジリエンスを育成する授業と児童のメンタルヘルスとの関係を調べることを目的としています。本研究により学校のメンタルヘルス支援体制に関する新たな知見が得られることで、効果的なレジリエンスを育成する授業の実施により、児童のメンタルヘルスの向上に寄与することが期待されます。

## 3. 研究の方法

小学校では予防教育の一環として、レジリエンスの授業を行うことがあります。授業と児童のメンタルヘルスの関係を調べるため、お子さんには授業の前、初回の授業の 2 か月後、初回の授業の 5 か月後の 3 回、質問紙調査研究への協力を依頼いたします。レジリエンスの授業を行わない学級のお子さんにも、同じ質問紙調査研究への協力を 2 回（2 回目は初回の 2 か月後に）依頼いたします。記入していただく質問紙は以下の 2 種類（11 歳～12 歳は 3 種類）です。

1. Social Support Scale for Children (SSSC; Matsumoto, 2012)

2. 小学生のレジリエンス評価尺度（田中, 2012）

### 3. Strengths and Difficulties Questionnaire (SDQ; Goodman, 1997) (対象児童 11 歳～12 歳の み)

集団としてのレジリエンスの定着の変化を見るために、アンケートには、回答者の氏名、出席番号、学年、クラス、性別を記載してもらい、学校の先生に提出してもらいます。質問紙は千葉大学で氏名を除いた（匿名化された）電子データとして、解析されます。質問紙原本は、千葉大学で厳重に管理、保管されます。担任の先生が、質問紙調査の結果を成績評価等に用いることは一切ありません。自記式質問紙調査はレジリエンスの向上を図る研究のためにのみ使われます。同意できる場合のみ、研究へのご協力をお願いします。

### 4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、外部に洩れることのないように匿名化、記号化し厳重に管理します。電子データ等は、千葉大学子どもこころの発達教育研究センター内の、鍵のかかる棚で保管します。研究成果の発表にあたっては、お子さんの氏名及び学校名などは一切公表いたしません。

### 5. 研究に情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をします。下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。ご協力いただけない場合でも、お子さまは他のお子さまと同じ授業を受けることができ、不利益を受けることは一切ありません。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて掲示を行っています。

研究実施機関：千葉大学子どもこころの発達教育研究センター

本件のお問合せ先：山本利枝 特任教授 平野好幸

043 (226) 2975 yama.toshi@chiba-u.jp